

# 東京農業大学の沿革

## 榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英傑榎本武揚だ。明治政府で外相、文相、農商務相などの要職を歴任した榎本は、明治24年（1891）、東京に「私立育英塾」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。

東京農学校時代の明治28年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。本学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

## 傘下に東京情報大学

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部、短期大学部の6学部21学科からなり、大学院は2研究科19専攻体制が整っている。世田谷、厚木、オホーツク（北海道・網走）の3キャンパスに学生・院生ら約13,000人が学んでいる。

学校法人東京農業大学の傘下に、東京情報大学（千葉）がある。総合情報学部4学科、大学院1研究科で、学生・院生は約2,300人。傘下には、他に併設校として農大一高／中等部、同二高、同三高／附属中学がある。

学校法人東京農業大学広報部

## 新世紀の食と農と環境を考える 第10回世界学生サミット



9月30日、10月1日の両日、「新世紀の食と農と環境を考える第10回世界学生サミット」が、東京農大世田谷キャンパス百周年記念講堂で開催された。世界19か国・地域の姉妹校の学生・留学生を招き、厚木・オホーツクキャンパスを含め、2日間でのべ4,900人が参加し、白熱した議論が展開された。

(写真左) 講演者の発表に拍手をする姉妹校の学生たち。

(写真右) レセプションでは、農大名物大根踊りも披露された。